PARAMOUNT NEWS
パラマウントニュース
Vol.28　2018　春号

パラマウント硝子工業株式会社
http://www.pgm.co.jp
（業務推進部）
〒102−0083
東京都千代田区麹町 2-4-1 麹町大通りビル
TEL：03-4582-5370

ZEH、エコリフォームが手厚く 18年度の省エネ住宅への支援策に注目

2018年度の省エネ住宅に対する行政の支援策がさらに充実する。ZEHの支援メニューが大幅に拡充されるうえ、断熱リフォームに対する支援策にも新たなメニューが加わる。そのほか、税制面に対する認定住宅の優遇策も2017年度から継続。省エネ住宅の取得を促すさまざまなインセンティブが用意されており、提案の幅が広がりそうだ。（紹介する情報は3月1日時点のもので、変更される場合があります）

ZEHはバリエーションが大幅に増加

2018年のエコ住宅への支援策で、大幅に拡充されるのがZEHの支援策だ。

まず、環境省はこれまで経済産業省が実施してきたZEH支援事業を引き継ぎながら発展させた。

ZEHの要件を満たす戸建住宅の新築・改修に対し、戸当たり70万円を補助。エネルギー削減率が正味75%以上100%未満のNearly ZEHも対象とする。Nearly ZEHは、寒冷地、低日射地域、多雪地域を限定とする。

さらに、新たに太陽光発電等の再生可能エネルギーの搭載を要件に求めない「ZEH Oriented（仮称）」も設定し、支援対象に含めた。太陽光発電設備を多く搭載しにくい都市部狭小地の二階建て住宅が対象だ。

一方、経済産業省では、さらに高性能なZEHである「ZEH+」を新たに設定し、戸当たり115万円を補助する。

「ZEH+」の要件は、設計一次エネルギー消費量について、再生可能エネルギーを除き基準一次エネルギー消費量から25%以上の削減を求める。Nearly ZEH+も設定し、対象とする。さらに、①外皮性能の更なる強化②高度エネルギーマネジメント③電気自動車を活用した自家消費の拡大措置、のうち2項目のクリアを求めた。

経済産業省では分譲建売住宅でも、ZEH・ZEH+の補助を行う。

環境省、経産省の事業ともZEHビルダーであることが要件。ZEHビルダーについては、取り組み状況を星で評価する「ZEHビルダー評価制度」も開始する。

一方、国土交通省でもZEHに対して支援する。資材供給・設計・施工などの連携体制による省エネルギー性能や耐久性等に優れた木造住宅・建築物の整備に対して支援する「地域型住宅グリーン化事業」のなかで、補助を行う。掛増し費用の2分の1以内かつ対象事業費の10分の1以内で、戸当たり最大140万円を補助する。

ここまで戸建住宅のZEH支援策を紹介してきたが、集合住宅版のZEHに対する支援策もスタートする。環境省と経済産業省が共同で集合住宅版のZEH「ZEH−M（仮称）」を創設し、補助を行っていく。

エコリフォームでも新たな支援策が

一方、エコリフォーム関連でも、新たなメニューが加わる。

環境省は、経済産業省と連携し、「高性能建材による住宅の断熱リフォーム支援事業」を行う。既存住宅に対し、断熱性能を向上させる窓・ガラス、断熱材などの導入に関する経費の3分の1を補助する。上限額は戸建てで120万円。太陽光発電が搭載されていれば、蓄電池や蓄熱設備を設置する際の工事費や設備費に対しても補助を出す。

一方、経済産業省では「次世代省エネ建材の導入支援」を行う。従来実施してきた断熱リノベ事業を発展させたかたちで、工期が短く、大掛かりな工事を必要としない断熱改修や、蓄熱、調湿などの付加価値を持つ省エネ建材の導入を支援する。戸建については200万円、集合住宅については125万円を上限に、工事費の3分の1の補助を行う。

また、国土交通省では長期優良住宅化リフォームを行った場合に、決められた基準をクリアした住宅に対して補助する長期優良住宅化リフォーム推進事業を前年度に引き続き実施する。

そのほか、認定住宅に対する住宅ローン減税などエコ住宅に対する減税制度も継続して実施される。

各省庁の戸建住宅に対するZEH支援の概要

環境省	ZEH	設計一次エネルギー消費量が、再生可能エネルギーを除き、基準一次エネルギー消費量から20%以上の削減を求める、いわゆる従来のZEH	70万円／戸（低炭素化に資する素材の一定以上の仕様や、先進的な再エネ利用技術の活用で戸当たり90万円上乗せ。蓄電池の設置でkWh当たり3万円上乗せ）
	Nearly ZEH	エネルギー削減率が正味75%以上100%未満のZEHに準ずるもの。低日射地域や多雪地域など対象となる地域が決まっており、その地域に限り、ZEHと同じ補助を受けられる。	
	ZEH Oriented	再生可能エネルギー設備の設置を要件に求めないZEH基準。都市部狭小地の2階建以上の住宅を対象。	
経済産業省	ZEH+	設計一次エネルギー消費量が、再生可能エネルギーを除き、基準一次エネルギー消費量から25%以上の削減を求めるほか、さらなる断熱強化など3つの要件のうち2つの要件を満たすことを求めるZEHの上位基準	115万円／戸（低炭素化に資する素材の一定以上の仕様や、先進的な再エネ利用技術の活用で戸当たり90万円上乗せ。蓄電池の設置でkWh当たり3万円上乗せ）
	Nearly ZEH+	エネルギー削減率が75%以上100%未満のZEH+に準ずるもの。	
国土交通省	資材供給・設計・施工などの連携体制による省エネルギー性能や耐久性等に優れた木造住宅・建築物の整備に対して支援する「地域型住宅グリーン化事業」のなかで、ZEHへの補助を行う。		最大140万円／戸（掛増し費用の2分の1以内かつ対象事業費の10分の1以内）

高性能建材による住宅の断熱リフォーム支援事業のイメージと補助額

既存住宅を改修する者

ガラスの交換　外窓交換・内窓設置　天井・壁・床等の断熱　蓄電池又は蓄熱設備

既存戸建住宅への高性能建材導入	120万円／戸（補助率1／3）	
家庭用蓄電池	設備費	定額（3万円／kWh、上限1／3）
	工事費	定額（上限5万円／台）
家庭用蓄熱設備等	設備費+工事費	定額（上限5万円／台）

TOPICS

既存住宅のラベリング制度、「安心R住宅」制度を告示
国土交通省

いわゆる「安心R住宅」ラベルの使用を4月からスタートする。良質な既存住宅に対して、ラベルを付与する制度。既存住宅に国の“お墨付き”がつく。ラベルは宅建事業者を会員に持つ登録事業者団体を通じて付与。

断熱改修が血圧低下や夜間頻尿の低減に効果
一般社団法人　日本サステナブル建築協会

（一社）日本サステナブル建築協会が「住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する調査」の第2回中間報告を公表。断熱改修で温熱環境の改善により起床時の血圧の低下に加え、夜間頻尿も改善傾向がみられた。

木造住宅の外皮の劣化リスク抑制で、ガイドラインを公表
国土技術政策総合研究所

雨水浸入や結露に伴う木造住宅の劣化リスクとその対策をまとめたガイドラインを公表。漏水リスクの高い部位である「開口部まわり」、「屋根・外壁取り合い部」「バルコニー」について、推奨納まり図（案）などを示した。

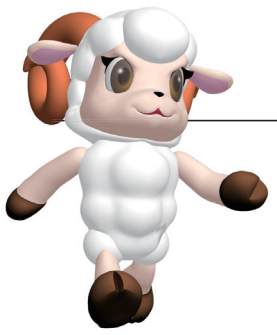
NEW PRODUCT

パラマウント硝子工業の2018年新製品のご案内

待望の上位グレードがこの夏、登場！

快適な暮らしを最高峰の断熱性能*で。

グラスウールは次世代へ



＊パラマウントの製品群の中で最高峰であること
（2018 年 2 月現在／熱伝導率（測定温度 23℃）JIS A 9521：2017 6.7 の規定に基づく自社測定による）

「ハウスロン ZERO」と「太陽 SUNR」
それぞれに上位グレードのラインナップを拡充することで、
これまで以上にお客様のご期待にお応えしていきます。

ハウスロン ZERO
GWHG24-35
熱伝導率 **0.035** [W/(m·K)]
袋入り品
最高峰の断熱性能*

GRADE UP
上位グレードの
ラインナップを拡充！
2018年 夏 登場

太陽 SUNR
GWHG38-32
熱伝導率 **0.032** [W/(m·K)]
裸　品
最高峰の断熱性能*

ハウスロン ZERO リリース製品仕様

商品記号	密度 [kg/㎥]	寸法[mm] 厚さ	幅	長さ	入数／施工面積 [枚]	[坪分]	熱伝導率 [W/(m·K)]	熱抵抗の記号	備考
HZD105C28L	24	105	390	2 880	5	約1.9	0.035	R3.0	在来(柱-間柱)
HZD105M28L	24	105	425	2 880	5	約1.9	0.035	R3.0	在来(間柱-間柱)

ブランド・ラインナップ		
熱伝導率	熱伝導率	熱伝導率 NEW
0.045 [W/(m·K)]	0.038 [W/(m·K)]	0.035 [W/(m·K)]

太陽 SUNR リリース製品仕様

商品記号	密度 [kg/㎥]	寸法[mm] 厚さ	幅	長さ	入数／施工面積 [枚]	[坪分]	熱伝導率 [W/(m·K)]	熱抵抗の記号	備考
SRG53C13K	38	53	390	1 370	12	約2.2	0.032	R1.7	在来 壁(柱-間柱)
SRG53M13K	38	53	425	1 370	12	約2.2	0.032	R1.7	在来 壁(間柱-間柱)
SRG53R13K	38	53	805	1 370	6	約2.2	0.032	R1.7	在来 床(大引き間)

ブランド・ラインナップ	
熱伝導率	熱伝導率 NEW
0.035 [W/(m·K)]	0.032 [W/(m·K)]

NEW PICK UP

最新情報を厳選してご案内

硝子繊維協会
グラスウールの標準工法で「GWS工法」を推奨

パラマウント硝子工業などグラスウール断熱材メーカーが加盟する硝子繊維協会では、グラスウール断熱材を使った新しい標準充填断熱工法として「GWS（ジーダブルエス）工法」を推奨している。

「GWS工法」の「S」は、「シンプル」「スマート」「ストロング」「シールド」という工法の特長とメリットを示す4つの意味が込められている。

グラスウールの充填断熱工法は、安心で確実な断熱工法として広く普及している。この一方で、採用する住宅事業者からは、筋交いへの施工、壁内の空気の流れを止める「気流止め」の施工などが難しいという声もあった。

「GWS工法」は、合板や石膏ボードといった面材を使って、筋交い部の施工や気流止めの施工を不要にしたのが大きな特長だ。

具体的には、壁の外周部は構造用合板などの耐力面材を隙間なく施工する。これにより、断熱材の施工が面倒な筋交いを省く。また、1階の床は剛床にし、壁の石膏ボードは銅差や梁、桁まで張り上げるようにすることで、これまで床・壁の取り合い部に必要だった気流止めの施工を省略する。

これにより、簡単に断熱・気密化が図れる。加えて、耐震性・防火性・防音性などにも優れた効果を発揮する。

また、特別な技術を必要としないのも「GWS工法」の魅力だ。壁の外周部などに構造用面材を多用し面として躯体を隙間なく覆う工法は、いわゆる「ボード気密工法」と呼ばれ、普及が進んでいる。また、剛床工法はすでに一般化しているものだ。こうした一般的な工法をグラスウールの充填断熱のしやすさを踏まえて整理し、標準化工法として確立させたのがGWS工法であり、住宅事業者が取り組みやすい工法といえる。

硝子繊維協会では「GWS工法」を、ますます求められる住宅性能の向上と施工性の向上に大いに貢献できる工法として広く普及させていきたい考え。今後、セミナーやWebなどを通じてGWS工法を紹介していく。

簡単に断熱・気密化が図れるうえ、耐震性・防火性・防音性にも優れた効果を発揮

業務推進部案内編
取材めし
取材先のご当地で食す
絶品グルメをご紹介。

パラマウント硝子工業 東京支店の社屋は地下鉄の麹町駅と半蔵門駅の間にある。
この地は、放送関係の企業も多い日本有数のオフィス街だけにメディアで見る飲食店も多い。
そんな麹町のランチで野菜をしっかり摂取でき、美味しい和食といえば「麹村」。
落ち着いた雰囲気のある店内とメニュー内容に好感を持ちながら「本日の魚料理定食」を注文するとメインの「サワラの照焼き」は、上品な味付けと新鮮な素材で絶妙なバランス。
味噌汁は具沢山ながら、お互いを邪魔しない味のハーモニーが楽しめる。
このお店は料理すべてが洗練されていながらもリラックスしたランチを楽しめた。

お店情報：麹村／東京都千代田区平河町 2F・3F・4F／TEL.03-3230-1948／営業時間：ランチ11:00～14:30(月～土)／ディナー17:00～23:30